

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた数学科の取り組みに関し、お伝えいたします。

◇ その1 自宅待機期間の課題

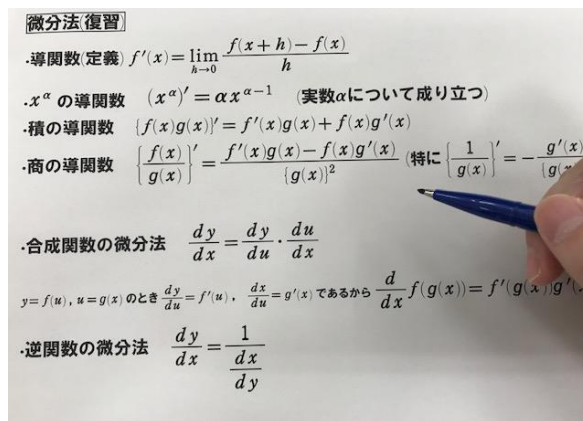
自宅待機期間について、2, 3年生は主に復習が行えるように各自所持している教材から指定した問題を解くように指示を出し、1年生は授業再開に向け学習習慣が身に付くように課題を提示した。日々チェックするということが困難であったため、毎日こつこつ進められたか、一定期間に集中して取り組んだか生徒個人によりばらつきが予想されたが、後の課題提出により、多くの生徒は懸命に取り組んでいたことが分かった。

◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

オンライン学習支援を実施することが決まったとき、まず実施形式について教科内で議論した。生徒はスマートフォンで視聴する者が最も多く、そのサイズであっても支障が少なく済むよう工夫した。教員が説明をしている様子全体を撮影すると、どうしても書いたり提示したりする字のサイズは、より小さく見にくくなるため、A4サイズの紙1枚に見やすい大きさの字で学習資料を用意し、そこに直接書き込んでいく形式にした。すべて書き込んだ状態で授業を展開するのではなく、今どこの話をしているか分かるようにリアルタイムで書き込んでいく形式をとった。



(オンライン学習支援の様子)



(このように資料を写して、書き込みながら説明した)

◇ その3 対面授業再開後の対応

オンライン学習支援の後に対面授業が再開したため、生徒がどの程度理解できている状態で臨んでいるか分からなかった。そもそも毎時間すべての生徒がオンライン学習支援を必ず視聴している訳ではなく、また通信環境の差により、視聴したくてもできない生徒もいた。そのため、対面授業ではまずオンライン学習支援の際扱っていた内容の復習も必要だった。しかし、内容をもう一度すべてやり直す訳にもいかず、新たに進める量とのバランスを考えるのに苦労した。

◇ その4 現状と今後の課題

現在もまだ、従来のような授業展開はできておらず、どうしても生徒の反応を見て取ることが今までよりも難しい。このような状態がこれからも続く可能性があるため、新たにできることを模索しながら教科指導を行っていきたい。

今後再びオンラインでの学習支援がある場合も、今回の反省を生かし、例えば生徒の課題チェックがこまめにできるような体制を整えるなど、生徒のためになるような工夫をしていくこと、それを各教科各学年で話し合っていくことが重要であると感じた。